



⑤ 敵基地攻撃能力

大量購入する方針に転換しました。

しかも、政府は、安保法制に基づき、日本が直接攻撃されなくても、「我が国と密接な関係のある他国に対する武力攻撃が発生し」我が国に一定の危険があると判断した場合(存立危機事態)にも、集団的自衛権の行使として「反撃」が可能としています。

現在、米国は、「迎撃」と「反撃」を一体とした「攻守一体」のミサイル網である「統合防空

まれることにつながります。現に、自衛隊は「統合作戦司令部」を設立し、米国との一体化を進めています。

国際法違反の先制攻撃にも

IAMDは、武力攻撃が発生する前に、攻撃の脅威となる基地を「予防的」に攻撃することを想定しており、国際法上違法な先制攻撃につながります。日本は、米国の防衛体制の下で、憲法ばかりでな

機(茨城)に予定されています。

米国から400発購入予定のトマホークについても、海自のイージス艦に搭載計画が進められ、今年3月に長崎・佐世保の「ちよっかい」が工事を終了し、夏にはアメリカでの実射試験が予定されています。

舞鶴のイージス艦搭載へ改修費

京都でも、舞鶴の「みょうこう」と「あたご」の改修費が、26年度概算要求に計上され、トマホークの保管場所と目

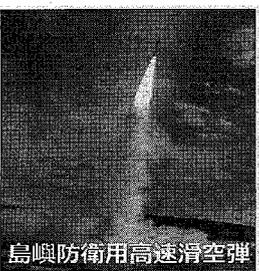
中国を射程内 東アジアの緊張加速

年12月、当時の自公政権は、「安保三文書」の閣議決定によって、①国産の長射程ミサイルの開発②米国製の巡航ミサイル「トマホーク」(射程約1600キロ)を

ミサイル防衛(IAMD)を、同盟国を巻き込み、地球規模で展開しようとしています。日本の「敵基地攻撃能力」保有は、米国のミサイル防衛網に組み込

く国際法違反を侵す先兵にされるわけです。長射程ミサイル配備計画は、当初予定を前倒して進められています。国産の「12式地对艦誘導弾能力向上型」(射程1000キロ)

される陸自祝園分屯地では、弾薬庫増設に向けて25年8月に造成工事が始まりました。昨年11月7日、高市首相は、台湾有事が戦争法の「存立危機事態」にあると国会で発言しました。今年3月に熊本に長射程ミサイルが配備されれば、中国大陸沿岸部が日本の射程圏に入り、首相の発言を真打ちする状況が生まれます。



島嶼防衛用高速滑空弾



12式地对艦誘導弾能力向上型



トマホーク (イメージ)

開発、購入を予定している長射程ミサイル類 (防衛省令和8年度予算案資料より)

ら発射する「艦発型」が27年度に海自横須賀地区の護衛艦(神奈川)、航空機から発射する「空発型」が空自百里基地のF2戦闘

東アジア地域に無用の緊張を生み、戦争の種」をまく危険な行為は直ちに撤回し、憲法の平和主義に沿った方針に転換すべきです。(白土哲也・弁護士)